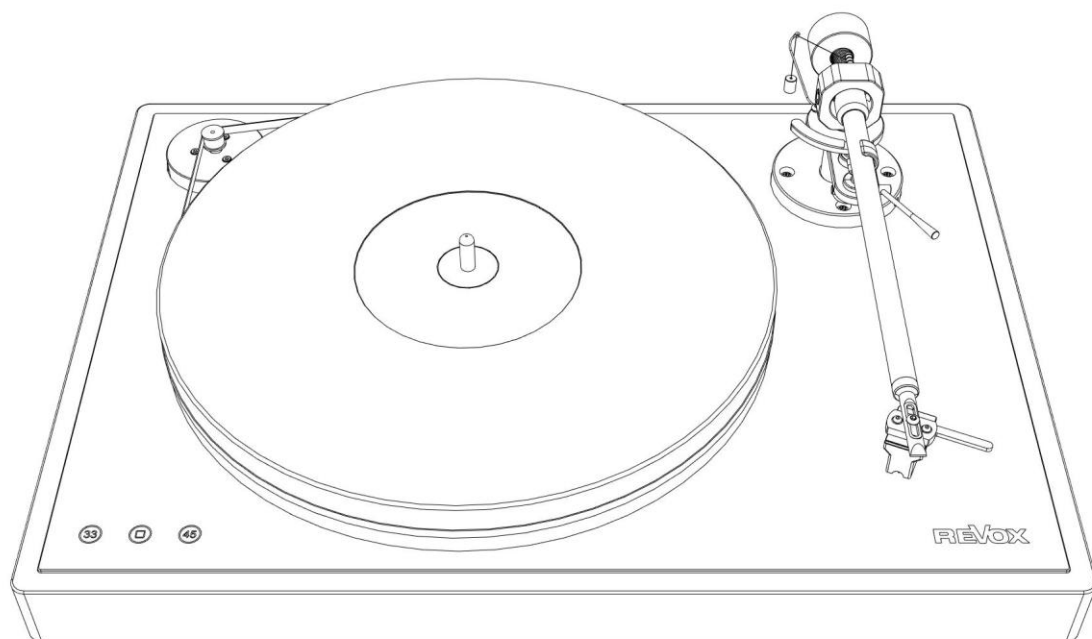


取扱説明書

STUDIOMASTER T700 Turntable



はじめに	1
開梱	1
本体・付属品	1
序文	2
アナログ音楽体験	2
内蔵フォノプリアンプ	2
電子速度制御	2
消耗品に関する注意	2
組立・設置	3
1: DIPスイッチの確認	3
2: サブプラッターとプラッターの取付	4
3: ドライブベルトの取付	4
4: トーンアームとトーンウェイトの取付	5
5: デジタル針圧計による針圧の調整	5
6: アンチスケーティングウェイトの取付	6
7: T700 ターンテーブルの接続	6
操作	7
組立後の動作確認	7
レコードの再生	7
レコードのクリーニング	8
再生	8
停止	8
基本設定・メンテナンス	9
免責事項	9
フォノプリアンプ	9
インピーダンス (MCローディング)	9
感度 (MC感度)	10
回転速度の設定	10
回転速度のキャリブレーション	10
カートリッジの交換	11
トーンアームの高さ調整	11
針のアジマス角調整	11
デジタル針圧計	12
付属品	12
T700 テクニカルデータ	13
MCフォノプリアンプ	13
トーンアーム・カートリッジ	13
仕様	13

はじめに

STUDIOMASTER T700ターンテーブルをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用の前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

安全にご使用いただくための取扱方法、不要な機器の廃棄方法、保証規定については保証書をご覧ください。
機器、または外部電源ユニットへ記載されている表示にご注意ください。



筐体内部のメンテナンス、及び修理は危険ですのでおやめください。
異常が生じた場合には、販売店・輸入代理店にお問い合わせください。

開梱

STUDIOMASTER T700ターンテーブル・付属品の開梱後に、以下のものが全て同梱されているかご確認ください。
損傷や水濡れがあった場合には、電源を入れずに販売店・輸入代理店にお問い合わせください。

本体・付属品

- ・ T700ターンテーブル本体（トーンアーム付）
- ・ オルトフォン MC Quintet Bronze（トーンアーム取付・調整済）
- ・ サブプッター
- ・ プッター
- ・ アクリル製ダストカバー
- ・ ACアダプター（15 VDC / 最小1A）
- ・ 綿製手袋
- ・ 付属品BOX
 - ・ 六角レンチ（1.5 mm）：アジマス角調整用
 - ・ 六角レンチ（2.0 mm）：カートリッジ変更用
 - ・ 六角レンチ（3.0 mm）：トーンアームの高さ調整用
 - ・ デジタル針圧計
 - ・ ドライブベルト
 - ・ デジタル針圧計テスト用ウェイト（5g）
 - ・ レコードブラシ
 - ・ アンチスケーティングウェイト（5g）
 - ・ トーンアームウェイト
 - ・ 丸型水平器
- ・ T700ターンテーブル 取扱説明書
- ・ ウェルカムレター
- ・ 保証書

機器の輸送に備えて、梱包材一式の保管をお願いいたします。

序文

アナログ音楽体験

T700は、革新的な技術を備えた高品質ターンテーブルです。ドイツで最高品質の材料のみを使用して製造された優雅で時代を超えたデザイン性が特徴。内蔵のMCフォノプリアンプにより、T700ターンテーブルは一般的なオーディオ製品とも接続が容易であり音質にこだわる全ての音楽愛好者に感動的なオーディオ体験を提供します。

内蔵MCフォノプリアンプ

T700の特筆すべき点は、独自の内蔵MCフォノプリアンプです。カートリッジとプリアンプ間の最短かつ最良の接続が実現。これにより外部からの干渉を防ぎ、最高品質の信号が得られます。トーンアームのシグナルケーブルは、直接プリアンプの入力端子に半田付けされています。更にフォノプリアンプとモーター制御用の電源は絶縁されているため、相互の干渉を防いでいます。

電子速度制御

最高の音質を実現するためには正確な速度の精度が不可欠です。そのため、本機には高精度のクォーツ精度PLL速度制御が搭載されています。この制御により環境や温度変化、ベルトやベアリングの劣化、再生中の摩擦などによって生じる速度の偏差を補正し、0.1%の許容範囲で絶対的な目標速度を維持します。このベルトドライブシステムは高質量のプラッターと最適に設計されたプラッターベアリングを組み合わせることで、ほぼ完璧な同期を実現します。また、ゆっくりとしたモーターの始動を保証するソフトスタート機能によりベルトの摩耗が軽減されます。

消耗品に関する注意

T700ターンテーブルの機械系、及び電気系の設計は、お客様に長く音楽を楽しんでいただくことを目指しています。スタイラスを含むカートリッジとドライブベルトは一定の摩耗や劣化が生じるため、REVOX社ではこれらの部品を500～800時間の使用後、または4～5年のいずれかで必要に応じての交換を推奨しています。

組立と設置

T700ターンテーブルは輸送前に各部品を組立て、シャフトとベアリングの調整を行なっています。調整後にはHi-Fiシステムでの音響最終テストを行なっております。輸送時には機械精密機器のため、ターンテーブルベアリングやトーンアームベアリングが損傷しないよう各部品を分解をしてから梱包しています。

ターンテーブルの保管に関する注意

T700ターンテーブルは工場にて製品ごとに各部品を組立て、個体毎に適切な水平調整を行なっています。複数のT700ターンテーブルや他社製品のターンテーブルを同時に設置する場合には、各部品の交換や取付け違いのないようにご注意ください。

手袋の使用に関する注意



T700ターンテーブルの内箱には綿の手袋が1組入っています。

この手袋は、T700を組立てる際に指紋や傷が付くのを防ぐために同梱されています。

ドライブベルトを取り付ける際にも、ドライブベルトがグリースやオイルに触れないよう手袋をご使用ください。ドライブベルトにグリースやオイルが付着した場合にはプリーとの接着が不十分になり、ゴムベルトの劣化を早める原因となります。ドライブベルトが万が一グリースやオイルに触れた場合は洗浄用アルコールで油分を除去し、ベルトが完全に乾いてから装着してください。

温度に関する注意

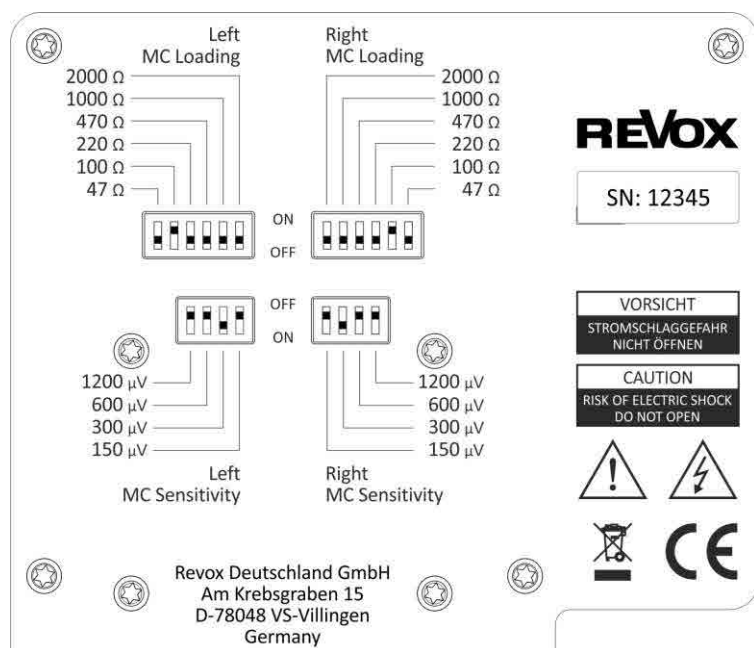


T700ターンテーブルを組立てる際には、ターンテーブルを含む全ての部品が常温になっている事を確認してください。低温状態の部品は膨張や収縮をしている可能性があり、正しい組立てを妨げる原因となります。

組立て ステップ1：DIPスイッチの確認

T700ターンテーブルの本体背面にあるDIPスイッチは、付属カートリッジ：オルトフォン MC Quintet Bronzeに合わせて設定されており、終端抵抗：100Ω、出力電圧300μVのゲインに調整されています。

その他のカートリッジを使用する場合にはDIPスイッチを確認・調整する必要があります。内蔵フォノプリアンプの詳細は“フォノプリアンプ(P.9)”をご参照ください。



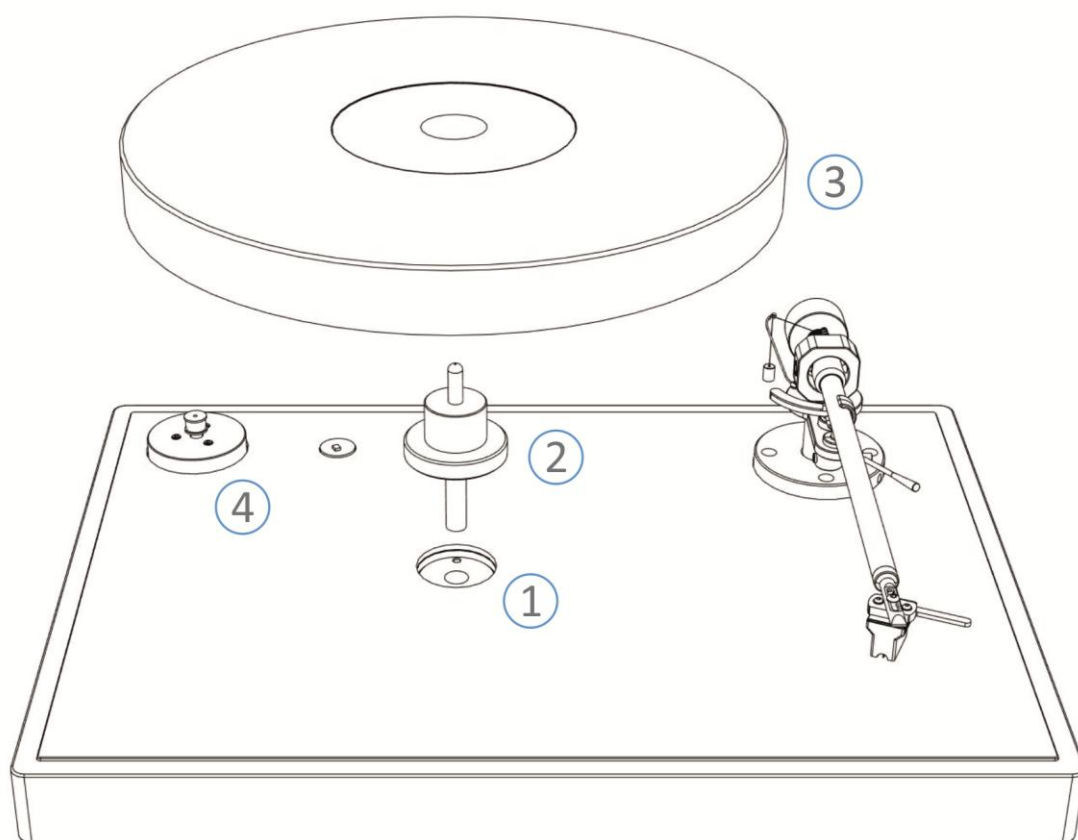
図：フォノプリアンプ初期設定(オルトフォン MC Quintet Bronze用)

組立て ステップ2：サブプлатターとプлатターの設置

T700ターンテーブルのプлатターベアリングに取り付けてあるプラスチックカバーを取外します。ブロンズベアリングに傷が付かないよう取外す際には鋭利な道具の使用を避けてください。取り外したプラスチックカバーは、梱包材と共に保管してください。

(注意：ブロンズベアリング内にはスチールボールが入っているため、シャーシを180度回転させると落下する恐れがあります。ご注意ください。)

サブプлатター②はプлатター③に組込まれた状態で梱包されています。サブプлатター②を分解する際には落下に備えて柔らかいクッションを敷いておく事をおすすめします。分解後にサブプлатター②をソケット①に挿入します。精密な調整が施されているためベアリング内をゆっくりと滑り込みます。シャフト部分には輸送前の組立て時に特殊なオイルが塗布されているため追加不要です。挿入が完了したらプлатター①を上から配置してください。



組立て ステップ3：ドライブベルトの取付け

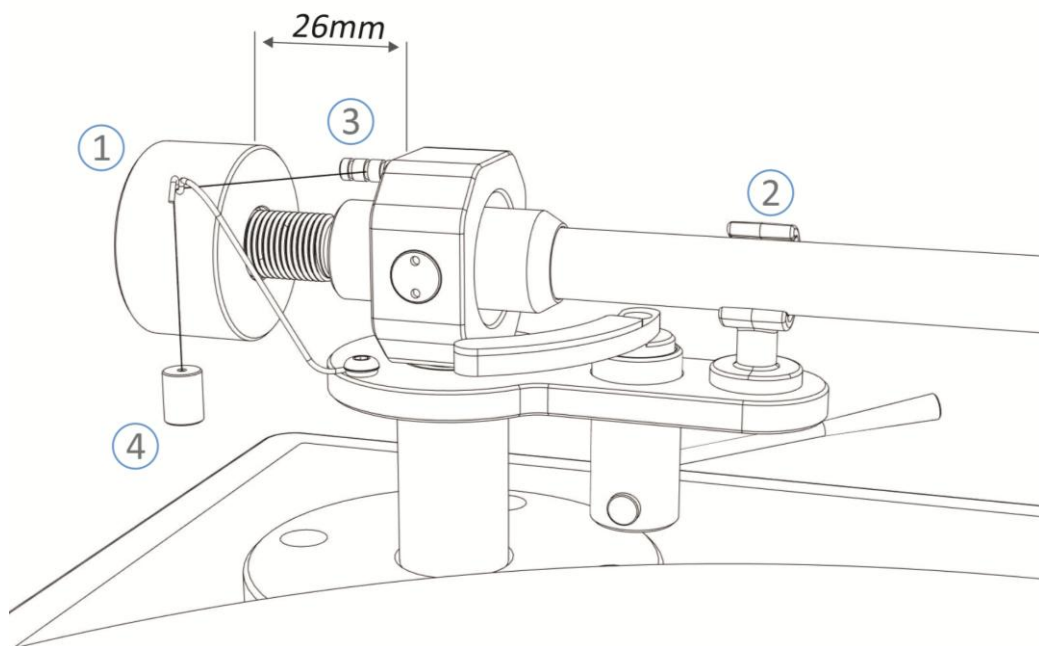
ドライブベルトを取付ける際には付属の手袋を着用し、グリースやオイルが付かないように注意してください。ドライブベルトをプлатター③の周りに取り付け、ドライブベルトを軽く引っ張りながらプーリー④に掛けます。ドライブベルトが均等に配置されるようにプлатター③を数回ほど手で回してドライブベルトがプーリー④の中央に位置するよう調整してください。



組立て ステップ4：トーンアームウェイトの取付け

トーンアームウェイト①を取付ける際には、トーンアームホルダー②に装着されている輸送ロックを取付けた状態で行なってください。付属品BOXからトーンアームウェイト①を取出しトーンアームのネジ部分へ均等に取付けていきます。トーンアームウェイト①の内側にはシリコンリングが装着されているので、軽く押し込みながら時計回りに回してください。

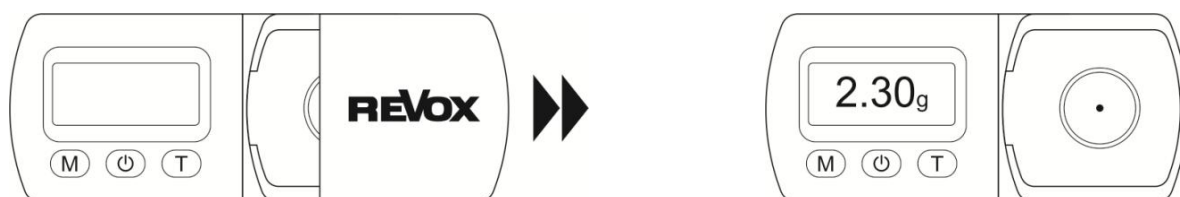
トーンアームウェイト①とトーンアームベアリング③の間を約26mmの間隔(下図参照)にすることで付属カートリッジ：オルトフォン MC Quintet Bronzeの推奨針圧2.3gに相当します。最後に輸送ロックを外し、付属のデジタル針圧計を使用して正確な針圧調整を行なっていきます。



図：トーンアームウェイト①、トーンアームベアリング③、アンチスケーティングウェイト④

組立て ステップ5：デジタル針圧計の設定

デジタル針圧計の保護カバーをスライドさせて取り外し、デジタル針圧計をターンテーブルの上に置いてください。この時、アンチスケーティングウェイト④がついている場合には外し、ターンテーブル上にレコードが無い状態にしてください。次にカートリッジの針ガードを取外します。トーンアームリフトを使用し針をデジタル針圧計の中央に降ろします。表示された針圧から調整を行なってください。オルトフォンが推奨する2.3gの針圧を基準値として $\pm 0.2\text{g}$ の範囲で調整可能です。デジタル針圧計の詳細な説明は“デジタル針圧計 (P. 12)”をご参照ください。



図：デジタル針圧計の保護カバーはスライドさせて取り外せます

組立て ステップ6：アンチスケーティングウェイトの取付け

T700には、レコード再生時にトーンアームが内周側へ向かう性質を打ち消すためにアンチスケーティングウェイト④が付属されています。付属品BOXから予め糸が装着されたウェイトを取り出しトーンアームベアリングにある溝のついた小さなピン③を介して取り付けます。
ウェイト(直径9mm重量5g)はピン③の中間の溝を使用することをお勧めします。

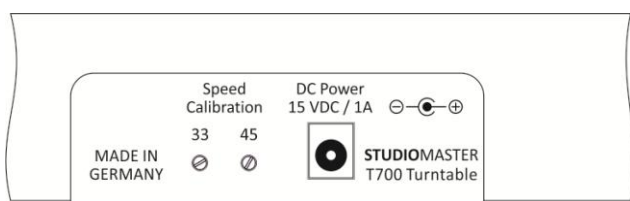
注意

針圧の測定(ステップ5)は、アンチスケーティングウェイトを外して行なってください。
デジタル針圧計を使用することでアンチスケーティングウェイトの重さ測定が可能です。

組立て ステップ7：T700 ターンテーブルの接続

T700ターンテーブルの側面には電源用の入力ソケットがあります。“DC Power”と表示された入力ソケットに同梱された電源コネクタを挿し込んでください。電源はREVOX社、及びESF社が提供する電源をご使用ください。他社製の電源使用は、損傷や不具合が発生する恐れがあります。その場合は保証対象外となります。

電源仕様：入力 100~240 VAC/50-60Hz 出力 12 - 15 VDC/最小1

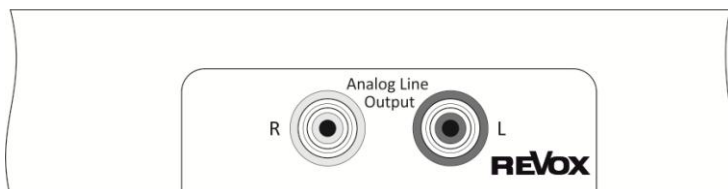


オーディオ接続

T700には非常に高品質なMCフォノアンプが内蔵されており、工場出荷時には付属カートリッジ：オルトフォン MC Quintet Bronzeに合わせて設定されています。T700の「Analog Line Output」端子からは、ラインレベルのステレオ音声信号が出力されます。これによりT700は別途フォノプリアンプを使わずに、アンプ、レシーバーなどのアナログ入力に直接接続できます。これらの入力端子は通常「Line-IN」「Analog Input」「Aux」「CD」「Tuner」「Tape」などと表示されています。

注意：T700をアンプのMC、またはMM等のフォノ入力に接続しないでください！

T700には、内蔵フォノプリアンプがあるため別途グラウンド線(アース)は必要ありません。また、増幅したラインレベル信号により、フォノプリアンプを搭載していないターンテーブルに比べ干渉のリスクが軽減されています。REVOX社では音質をより良くするために高品質でしっかりとシールドされたRCAケーブルの使用を推奨しております。ケーブル選びについては、専門店や販売店でご相談ください。



操作

組立て後の動作確認

レコードを再生する前に、T700を組立て後の動作確認を行う必要があります。

T700を電源に接続後、本体左下にある停止ボタン(⊖)が赤く点灯しているのを確認してください。次にトーンアームはホルダーに固定されており、カートリッジの下にある針ガードは取り外されていることを確認してください。

33⅓rpm(㉓)・45rpm(㉔)のボタンのどちらかを選択して軽く触れるとターンテーブルが起動します。ターンテーブルはゆっくりと回転を始め設定速度の33⅓rpm、もしくは45rpmに達するまで選択したボタンが点滅します。スピードが設定値に達すると選択したボタンは常に点灯します。

ボタンには33・45と表示されていますが、回転速度は正確に33⅓rpm・45rpmに調整されています。

動作確認は、33⅓rpm(㉓)・45rpm(㉔)それぞれ行なってください。

設定速度に到達するまで3～6秒程度を要しますが、それ以上かかる場合は回転速度の調整が必要です。調整はT700の背面にある“speed controller”と表示された2つの調整ネジで行います。

詳細な手順については“回転速度設定(P. 10)”をご参照ください。

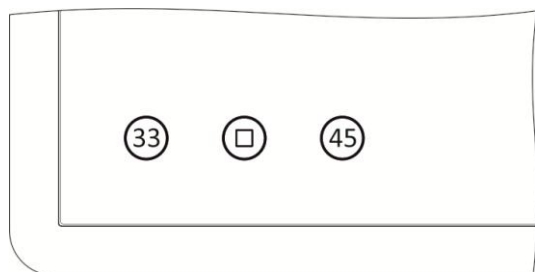


図1：回転速度ボタン・停止ボタン

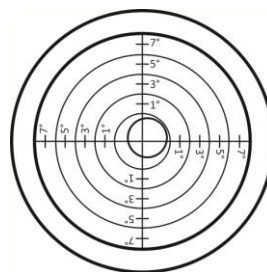


図2：丸型水平器

動作確認後、T700の設置場所が水平であることを確認します。付属の丸型水平器（図2）を使用してください。水平器を設置場所の平らな面に置き、内部の気泡が中心の1°マーク内に収まるように調整してください。

レコードの再生

動作確認後にレコードをセットし再生が可能です。レコードの指定速度をご確認ください。一般的に、直径12インチ(30cm)の長時間再生用レコード(LP)は33⅓rpm、直径7インチ(17.5cm)の小型シングルレコードは45rpmの速度が必要とされています。再生速度と表記されていることもあります。

一部の小型7インチレコードには、直径38.1mmの大きな内径を7mmに縮小するためのEPアダプターが必要です。（付属していません）もしくは、プラスチック製のアダプターをレコードに取付ける方法もあります。

△EPアダプターは、付属BOXの丸型水平器の収納スペースに保管が可能です。

△誤った再生速度を選択しても、針やレコードにダメージを与えることはありませんが、音程に不具合が生じます。これをミッキーマウスエフェクトと表現されることがあります。

ターンテーブルプラッターに関する注意

T700のプラッターは、共鳴特性が非常に低いPOMプラスチック製で、外部からの振動や音の影響を受けにくい設計です。そのため、ターンテーブルマットなしでも高音質な再生を維持することができます。

ターンテーブルマットを使用して振動の抑制を高め、音質の微調整も可能です。

マットを使用する場合は、レコードの高さに合わせてトーンアームの高さを調整する必要があります。詳細は“トーンアームの高さ調整(P. 11)”をご参照ください。

レコードの掃除

再生前に、レコードを付属のカーボンファイバー製のレコードブラシで掃除します。レコードの埃は再生中にパチパチと異音を引き起こし、カートリッジの針に付着する可能性があります。

レコードブラシをレコードが回転している状態で、ブラシの先端が時計の秒針のようにレコードの中心へ向くように垂直に当てます。ブラシをレコード上に数秒間置いた後、ゆっくりと外側に引きます。この動作をレコード上の埃が見えなくなるまで繰り返してください。

ブラシを清掃する際は、レコードブラシに付けられている取手をブラシ上で回転させてください。エアダスターを併用するとより効果的な清掃が行えます。

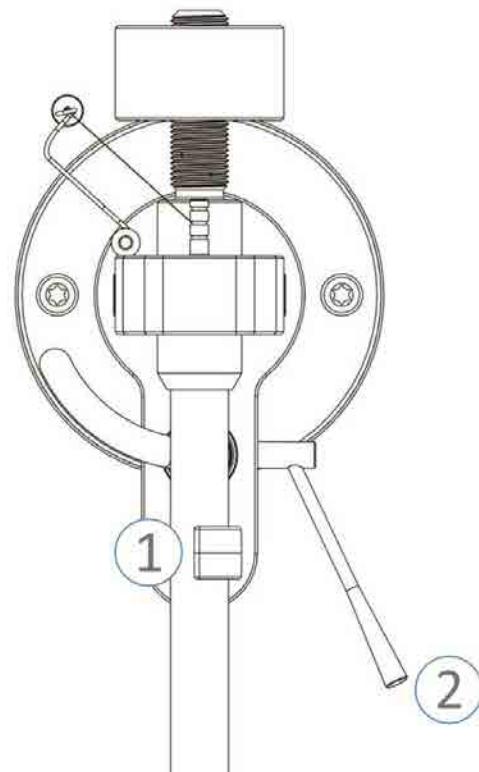
注意：コンプレッサーは油分が含まれているため使用しないでください。
カーボンファイバーは素手で触ると油膜ができ、ファイバー同士がくっつく恐れがあるためブラシ部分には触らないようにしてください。

再生

レコードが正しい速度で回っているか確認してください。次にトーンアームのリフトを上げます。リフトを上げるには、リフトレバー②を下から上に持ち上げます。次にヘッドシェルを持ってトーンアームをトーンアームホルダー①から外し、レコードの外側にある再生開始の溝の上に移動させます。最後にリフトレバー②を下げてトーンアームを下ろすと、音楽が再生されます。

停止

T700には自動停止機能はありません。レコードが終了すると、針は溝の中央に留まり、ターンテーブルは停止ボタン(Ⓢ)が押されるまで回り続けます。停止ボタン(Ⓢ)を押してターンテーブルが静止したら、リフトレバー②を使って再びトーンアームを持ち上げ、その後手でトーンアームホルダー①に戻します。トーンアームリフトは上げたままで問題ありません。



注意：

レコードが再生されていない場合、トーンアームは必ずトーンアームホルダー①に固定をしてください。針が長時間レコードの溝に留まっていると針のベアリングが損傷しトラッキング能力が低下する恐れがあります。

①再生終了の溝はレコードの中心付近にあります。

基本設定・メンテナンス

免責事項

T700ターンテーブルの機械部品の正確な調整には経験と専門知識が必要です。Revox社、及びESF社は個人の取扱いによって生じた損傷について一切の責任を負いません。ご不明点は、必ず専門店または販売店にお問い合わせください。

フォノプリアンプ

内蔵のフォノプリアンプは、MC (Moving Coil) カートリッジ専用に設計されています。感度(ゲイン)や推奨されるインピーダンスに応じて細かい調整が可能です。REVOX社では密閉型のDIPスイッチだけを使用しており、小型ドライバーを使って設定します。トグルスイッチやリレーといった他のスイッチシステムに比べ、DIPスイッチは高い耐久性があります。

トーンアームの配線は、専門家が手作業で半田付けを行い、フォノプリアンプの入力に直接接続されています。これによりオーディオ信号への外部干渉を防ぎ最良かつ最短の接続を実現します。

フォノプリアンプは、T700の底面にある2つのRCA端子の近くに配置されています。DIPスイッチを設定する際は、安全のためにターンテーブルとサブプラッターを取り外し、T700を横に傾けて行なってください。このときトーンアームはトーンアームホルダーに必ず固定してください。

重要 全てのDIPスイッチは、同じ値で左右反転に設定する必要があります。
これにより、左右のオーディオチャンネルが同じように動作します。

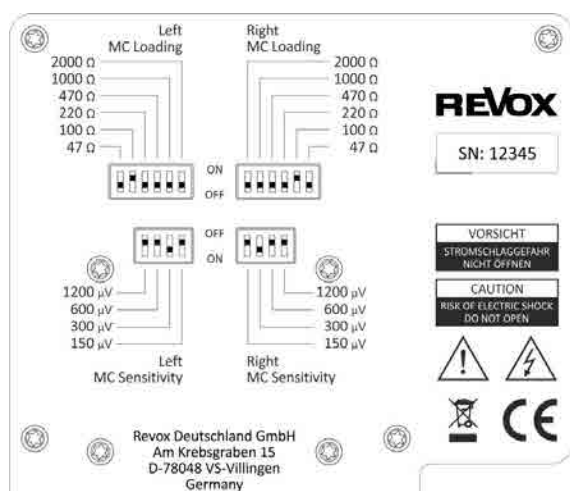


図1: T700の裏側に搭載された内蔵フォノプリアンプ

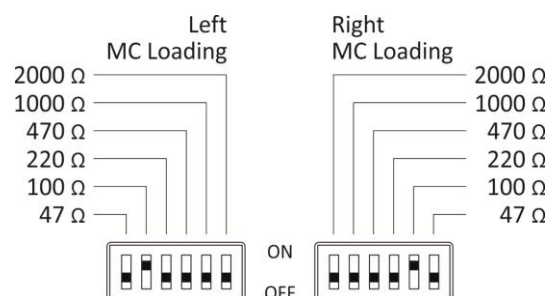


図2: 工場出荷時のインピーダンス

インピーダンス (MCローディング)

2つの6ピンDIPスイッチ (図1) により、カートリッジに合わせて47~2000Ωのインピーダンスを調整できます。本製品には低ノイズのSusumu製抵抗が6種類使用されており、DIPスイッチをONにすることで単独、または複数の抵抗値を選択可能です。複数のDIPスイッチをONにした場合、2つ以上の抵抗が並列接続されます。

REVOX社では付属カートリッジ: オルトフォン MC Quintet Bronzeにに合わせて、工場出荷時にインピーダンスを100Ωに設定しています。(図2)

一般的な抵抗の並列接続時の数式: $\frac{1}{R_{total}} = \frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2} + \frac{1}{R_3} + \dots$

2つ以上のDIPスイッチを選択した場合の数式: $R_{total} = \frac{R_1 \cdot R_2}{R_1 + R_2}$

例: 100Ωと470ΩのDIPスイッチを選択した場合のインピーダンスは、約82Ωになります。

$$R_{total} = \frac{470 \cdot 100}{470 + 100}$$

$$R_{total} = 82,5 \Omega$$

最小インピーダンス: 約25.3Ω (6つ全てのDIPスイッチをONにした場合)

最大インピーダンス: 2000Ω (2000ΩのDIPスイッチのみをONにした場合)

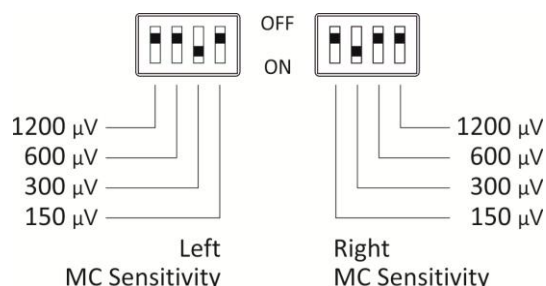
感度 (MC感度)

内蔵フォノアンプは、さまざまなMCシステムの感度に適応できます。出力電圧は、150 μ V、300 μ V、600 μ V、1200 μ Vの4段階から設定が可能です。フォノプリアンプのゲインおよびオーディオ信号の出力電圧は、感度によって決まります。イコライゼーションは、RIIA特性(米国録音産業協会の規格)に基づいて行われます。

注意：DIPスイッチ

感度設定は1ヶ所のみ選択可能です。必要な感度のDIPスイッチのみをONにしてください。複数のスイッチを選択した場合、誤作動を引き起こす可能性があります。表示されている数値の中間が必要な場合は、高い方の数値を設定してください。

フォノプリアンプは工場出荷時に付属カートリッジ：オルトフォン MC Quintet Bronzeに合わせて設定されています。出力電圧は300 μ V (0.3 mV、1000 Hz、5 cm/sec) です。



図：工場出荷時の感度設定

回転速度の設定

T700ターンテーブルのトーンアームは、工場出荷時に付属カートリッジ：オルトフォン MC Quintet Bronzeにに合わせて調整されています。この調整には、トーンアームをターンテーブルと平行にすること、トーンアームの角度調整、カートリッジの傾き調整が含まれています。また、ターンテーブル下部にある光センサーによって、33 $\frac{1}{3}$ rpmと45rpmの速度が検知されています。

長年の使用による摩耗や経年劣化に伴い、回転速度の再調整が必要になる場合があります。回転開始から設定速度に達するまでに約3～6秒以上かかる場合は、再調整が必要です。回転速度の調整は、個別に行うことができます。調整は、幅2.5mmの小型ドライバーを使用しT700の背面にある「speed controller (図1)」で行います。

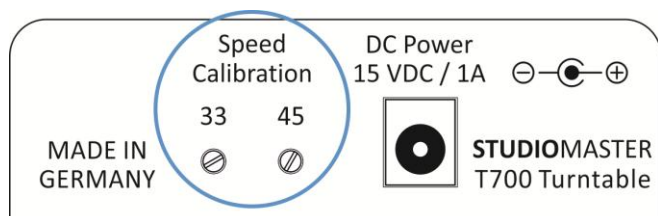


図1：T700の背面にある33/45回転速度コントローラー

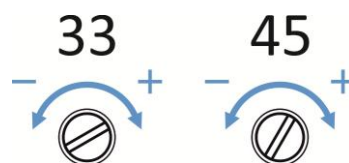
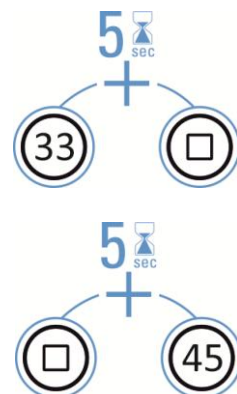


図2：回転速度の変更

回転速度のキャリブレーション

33 $\frac{1}{3}$ rpmのキャリブレーションを行うには、(33)と(⊙)のボタンを同時に約5秒間押し続け、2つのボタンが点滅したのを確認します。次に小さなドライバーを使ってT700の背面にある調整ネジを一方方向に回し、ボタンの点滅速度を観察します。(反映には2秒～4秒かかります) ボタンの点滅が速くなった場合、目標速度から遠ざかっているため反対方向に調整ネジを回してください。ボタンが点滅では無く、点灯した状態が目標速度に最も近い状態です。この状態で停止ボタン(⊙)を押すことでキャリブレーションの完了です

45rpmのキャリブレーションも同様に(45)と(⊙)のボタンを同時に約5秒間押し続け、点滅を確認後にT700の背面にある調整用つまみでキャリブレーションを行なっていきます。



カートリッジの交換

カートリッジは、500～800時間の使用を目安に交換する必要があります。交換の際はカートリッジに針ガードを装着してください。まず、お手持ちのピンセット等を使用しカートリッジに接続されている4本のワイヤーを取り外します。次に付属の六角レンチ (2.0mm) を使用して、ヘッドシェルにある2本のネジ①を緩め、カートリッジを取り外します。新しいカートリッジを取り付ける際は、取外しと逆の手順で進めます。

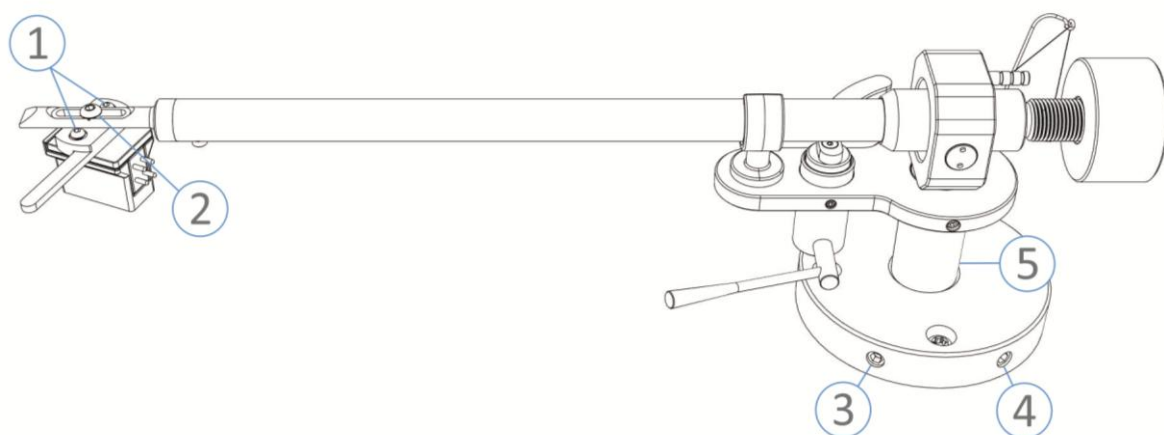
オルトフォン MC Quintet Bronzeとは異なるカートリッジを使用する場合は、針の水平位置、トーンアームの高さ、アンチスケATING、および針圧の再調整が必要です。調整にはネジ② (六角レンチ (2.0mm) を使用します。推奨値については、使用するカートリッジの説明書をご参照ください。

トーンアームの高さ調整

T700のトーンアームは高さ調整が可能です。付属のオルトフォン MC Quintet Bronze以外のカートリッジを使用する場合や、ターンテーブルマットを使用する場合には、高さの調整が必要になることがあります。

工場出荷時、トーンアームはオルトフォン MC Quintet Bronzeに合わせて設定されており、ターンテーブルマットを使用しない場合は調整の必要はありません。

トーンアームの高さを調整するには、トーンアームベースにある2箇所の六角穴付きボルト③と④ (下図参照) を緩め、トーンアームチューブ⑤を上下に動かすことで高さ調整が可能です。六角穴付きボルトを緩める際は、付属の最も大きな六角レンチ (3.0mm) をご使用ください。



針のアジマス角調整

アジマス角とは、カートリッジの傾きを指します。この角度は、レコードの溝に対してカートリッジの針が90度である必要があります。T700は工場出荷時に、アジマス角が90度に正しく設定されています。

アジマス角を調整するには、トーンアームチューブの小さな円筒形のネジ⑥ (下図参照) を緩め、ヘッドシェルを回転させることで調整が可能です。ネジ⑥を緩める際は、付属の六角レンチ (1.5mm) をご使用ください。



アジマス角が正しく設定されている状態とは、カートリッジの針がターンテーブルに対して垂直になっている状態のことを指します。オルトフォン MC Quintet Bronzeの場合、小さな鏡をカートリッジの下に置くことでアジマス角を正確に確認できます。また、正面から見ることで水平面での微小なズレや不整合を明確に識別できます。調整後は、ネジ⑥を慎重に締めてください。

デジタル針圧計

T700は、付属のデジタル針圧計を使用することで、カートリッジメーカーが推奨する針圧を0.01g単位で正確に設定することが可能です。さらに、測定器の精度を確認するためのテスト用ウェイト(5g)が付属されています。針圧計の計量プレートは非常に繊細なため、取り外し可能な保護カバーが付いています。使用時は保護カバーを右側にスライドさせて取り外してください。使用しない時は、この保護カバーを必ず装着してください。

デジタル針圧計には、以下の3つのボタンがあります。

(M) 測定ボタン

測定単位の切り替えを行います。

(⏻) 電源ボタン

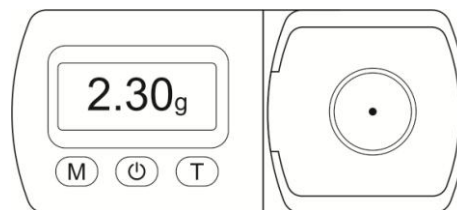
デジタル針圧計の電源の入/切を行います。約120秒後に自動で電源が切れます。

(T) 風袋引き・リセットボタン

風袋引き、もしくはリセットを行い、計測値を“0g”にします。平らで水平な場所に置いてボタンを押すと現状の計測値が“0g”として設定されます。針圧の設定前に付属のテスト用ウェイト(5g)の計測を行い、計測値が4.98g～5.02gと表示されることを確認してください。



図：保護カバーを取り外してください



図：保護カバーを取り外した状態

キャリブレーション

デジタル針圧計のキャリブレーションは、針圧測定に問題が生じた場合や、付属のテスト用ウェイト(5g)が正しく表示されない場合に行ってください。

手順

- ・電源を入れ、ディスプレイに“0.00g”と表示されるのを確認します。
- ・ディスプレイに“-0-”が表示されるまで電源ボタン(⏻)を長押ししてください。
- ・その後、ディスプレイに“5.00g”と表示されるまで待ちます。
- ・表示を確認後、計量プレートにテスト用ウェイト(5g)を置いてください。
- ・ディスプレイの“5.00g”表示が点滅、その後“PASS”と表示されたらキャリブレーションは完了です。

技術データ

測定範囲：0 ～ 5.00 g

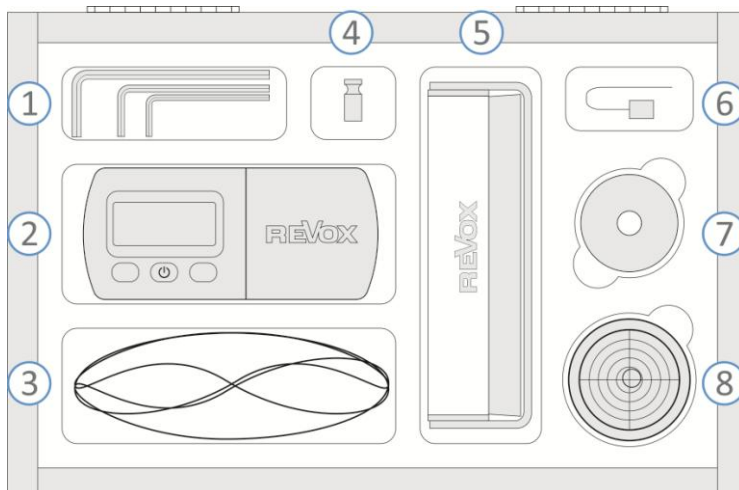
単位：グラム [g]、オンス [OZ]、グレーン [GN]、カラット [Ct]、テール [TL]、トロイオンス [ozt]

バッテリー：リチウムバッテリー(1.5V)2個 (例：LR43、AG12、186)

付属品

T700は、高品質な付属品BOXにトーンアームウェイトなどのデリケートなターンテーブル用部品や、レコード再生用の調整・ケア用品が収納されています。

- ・六角レンチ(1.5mm)：アジマス角調整用
- ・六角レンチ(2.0mm)：カートリッジ変更用
- ・六角レンチ(3.0mm)：トーンアームの高さ調整用
- ・デジタル針圧計×1
- ・ドライブベルト×1
- ・デジタル針圧計テスト用ウェイト(5g)×1
- ・レコードブラシ×1
- ・アンチスケーティングウェイト(5g)×1
- ・トーンアームウェイト×1
- ・丸型水平器×1



T700 テクニカルデータ

MCフォノプリアンプ

周波数特性: 7Hz~80kHz
 S/N比: -69dB (20Hz~20kHz)
 歪率 (THD): 0.005%
 チャンネル偏差: 0.2 dB
 チャンネルセパレーション: 80dB以上
 サブソニックフィルター: 10Hz、ハイパス1次 (6dBフィルター)
 RIAA精度: $\pm 0.2\%$
 MCインピーダンス: 6段階 47 Ω 、*100 Ω 、220 Ω 、470 Ω 、1k Ω 、2k Ω (並列接続により中間値が可能)
 入力感度: 4段階 150 μ V、*300 μ V、600 μ V、1200 μ V
 * MCフォノプリアンプ初期設定 (オルトフォン MC Quintet Black S 推奨値)

トーンアーム

スタティック・バランス方式
 ストレート型トーンアーム
 素材: カーボン製
 実効長: 237.6mm (9.35インチ)
 オーバーハング: 15mm (可変)
 クランク角: 23.96° (固定)
 実効質量: 11g

カートリッジ

モデル: オルトフォン Quintet Bronze
 出力電圧: 0.3mV (1kHz, 5cm/sec)
 周波数特性: 20Hz~25kHz (-3dB)
 チャンネルバランス: < 1.0dB (1kHz)
 チャンネルセパレーション:
 1kHz: >23dB
 15kHz: 15dB
 トラッキングアビリティ: 80 μ m (315Hz、適正針圧下)
 水平コンプライアンス: 15 μ m /mN
 スタイルタイプ: Nude Fine Line
 スタイルチップ半径: r/R 8/40 μ m
 カンチレバー: アルミニウム
 適正針圧: 2.3g (推奨範囲: 2.1~2.5g)
 トラッキング角度: 20度
 内部インピーダンス: 5 Ω (DC)
 カートリッジ重量: 9g

仕様

回転速度: 33 $\frac{1}{3}$ / 45 rpm
 回転数偏差: < 0.1%
 接続端子: アナログラインアウト (ステレオRCA端子)、DCソケット
 寸法: 幅470 x 奥行337 x 高さ156 mm (ソケット除く)
 背面の突出部: 16 mm (ヒンジ、及びRCA端子)
 消費電力: スタンバイ時 0.2W (30秒後)、33 $\frac{1}{3}$ 回転時/45回転時 2.7W
 電源電圧: 100-240 VAC / 50-60Hz
 T700 供給電圧: 12-15 VDC/最小: 1A
 重量: 総重量 10.3kg
 プラッター (POM): 2.85kg
 サブプラッター (アルミニウム): 0.21kg

本書は誤りや技術変更が生じる場合があります。

抜粋を含む複製や印刷には、Revox Deutschland GmbHの書面による承認が必要です。

REVOX
Studio Sound Quality

Contact

REVOX 輸入代理店

ESF | **EASTERN
SOUND
FACTORY**

株式会社イースタンサウンドファクトリー
〒223-0056

神奈川県横浜市港北区新吉田町205

TEL: 045-548-6592

FAX: 045-548-6593

HP: <https://esfactory.co.jp>

